

平成 29 年度

長野県公共事業再評価について

平成 30 年 1 月

長野県公共事業評価監視委員会

目 次

1	本年度の審議対象事業の考え方	・・・ 1
2	審議結果（意見書）のとりまとめ方	・・・ 1
3	再評価事業に関する委員会としての意見	
	（1）社会資本整備総合交付金（道路）事業 （主）長野真田線 松代（長野市）	・・・ 2
	（2）通常砂防事業 （砂）段ノ原沢 小松原（長野市）	・・・ 2
	（3）抽出以外の箇所	・・・ 3
4	おわりに	・・・ 3

平成 29 年度 長野県公共事業評価監視委員会 意見書

～公共事業再評価対象事業に関する意見～

1 本年度の審議対象事業の考え方

本年度、長野県公共事業再評価委員会（以下、「県再評価委員会」という）から長野県公共事業評価監視委員会（以下、「本委員会」という）に対し、意見を求められたのは、4 事業 5 箇所であった。

本委員会の設置要綱では、審議案件について、県再評価委員会が規定の条件に基づき選定した再評価対象事業から、本委員会が抽出するとされている。

本委員会では、表－1 に示す 5 箇所すべてについて県案の説明を聞いたうえで、事業の進捗状況、実施上の課題等を勘案し、詳細な審議の対象として 2 箇所を抽出した。

表－1 平成29年度 公共事業再評価対象箇所及び抽出箇所一覧

担当 部局	分野	再評価 理由	事業名	路河川名等	箇所名 (市町村名)	採択 年度	現行計画			再評価案		抽出 箇所	
							完成 予定 年度	総事業費 (百万円)	H29末 事業 進捗率 (%)	H30以降 残事業費 (百万円)	県方針 (案)		今後の コスト 縮減額
建設部	道路	10年経過	社会資本整備 総合交付金 (道路)	一般国道256号	漆畑拡幅 (南木曾町)	H20	H30	2,200	84.8%	335	継続	-	
建設部	道路	10年経過	防災・安全交付金 (道路)	主要地方道 長野真田線	松代 (長野市)	H20	H34	3,150	65.1%	1,100	継続	-	○
建設部	道路	10年経過	防災・安全交付金 (道路)	主要地方道 丸子信州新線	大岡 (長野市)	H20	H34	1,100	70.5%	324	継続	-	
建設部	砂防	5年未着工	通常砂防	(砂)段ノ原沢	小松原 (長野市)	H21	H33	180	11.2%	160	継続	-	○
林務部	地す べり	10年経過	地すべり防止	(地)長久保	長久保 (安曇野市)	H20	H34	1,623	66.4%	546	継続	-	
合 計					5件			8,253		2,465			

注) 網掛け：抽出箇所

事業の進捗状況、事業を巡る社会経済情勢等の変化等の視点から、「継続」「見直して継続」「計画変更」「一時休止」「中止」の5段階で評価

2 審議結果(意見書)のとりまとめ方

本年度の意見書のとりまとめにあたっては、県案に対する審議結果と評価の判断理由に加え、審議中にあった意見を事業ごとに記載した。

3 再評価事業に関する委員会としての意見

(1)社会資本整備総合交付金(道路)事業：(主)長野真田線 松代(長野市)

■県案に対する審議結果：「継続」とすることを妥当と判断する。

【判断に至った理由】

- 当該事業区間は、長野地域と上田地域を結ぶ震災対策緊急輸送路でありながら、狭隘な幅員と線形不良により、恒常的な渋滞や交通事故も頻発しているため、地域住民の安全・安心を確保するためにも整備が必要と判断できること。
- 当該事業の平成 29 年度末における用地取得率は 100%であり、住民の理解が進んでいること。
- 整備により、松代中心市街地の交通渋滞の緩和と安全な通行の確保が図られること。

《審議上の意見》

- 松代は町中の通過車両が時間帯によって多く、町並み景観保護にも支障がある。伝統的な建築も多くあり、当該事業が完成すると交通の分散が図られ、松代らしい雰囲気のあるまちづくりの一助になるのではないかと思われる。早期の供用が望ましい。

(2)通常砂防事業：(砂)段ノ原沢 小松原(長野市)

■県案に対する審議結果：「継続」とすることを妥当と判断する。

【判断に至った理由】

- 当該事業により保全する土砂災害特別警戒区域内には、災害時要配慮者利用施設が存在しており、人命を守るためにも整備が必要と判断されること。
- 事業着手における課題であった砂防指定地内行為許可違反等についても解決され、地域住民及び関係者の同意が得られていること。
- 近年多発する土砂災害において、防災効果を発揮した事例が多く報告されている砂防施設の整備は、災害に対する地域の安全、安心を確保するうえで必要なものであること。

《審議上の意見》

- 現計画の堰堤は不透過型であるが、流木対策を考える場合、透過型の効果が高い。本年度5月に発生した飯山市の土石流では、透過型の堰堤が流木、巨石を受け止め、防災効果を発揮した。

実施にあたっては、上流の状況などを加味しつつ、構造について検討されたい。

(3) 抽出以外の箇所

抽出以外の3箇所については、第1回長野県公共事業評価監視委員会において、県からの説明を聞く中で、事業の必要性や進捗状況等から、県の「継続」とする再評価案が妥当なものと判断した。

4 おわりに

本年度、長野県公共事業再評価審議対象として、県から意見を求められた5箇所については、4回の委員会と2回の現地調査を実施し、事業の必要性や進捗状況から、県案を妥当なものと判断した。

事業の実施にあたっては、引き続きコストの縮減を図りつつも、早期の整備により、利便性や安全・安心を求める県民の要望に応えるとともに、整備効果が必要な時に発揮されることを求めるものである。

なお、本年度の対象案件の中には、施工箇所の土質が当初計画時の想定と異なっていたことに伴う地盤沈下・圧密対策等により、当初計画に比べ事業費が4割以上増加している案件があった。増額理由は、現場の地質状況による工法変更などであり、必要なものと判断できるが、公共事業に対する信頼性確保の観点から、出来る限り必要な調査を事前に行い、計画段階において、より適正な全体事業費の把握に努めることとされたい。